

ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

1-1 理念・目的

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(理念・目的等) ○ センター等の理念・目的・教育目標とその適切性 ○ センター等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性	・現状 明治大学ボランティアセンターは、本大学の学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的として、駿河台、和泉及び生田の各校舎に設置されている。 本センターでは、学生のボランティア活動を支援するため、大別して次の4つの業務を行うこととしている。 1 ボランティア活動に関する情報収集・広報活動 2 ボランティア活動に関する相談・支援 3 ボランティア活動に参加する学生の人材養成 4 ボランティア活動に関する調査・研究 ・長所 各校舎のボランティアセンターでは、それぞれ特色ある取組みを展開している。 駿河台ボランティアセンターは、千代田区との連携による災害救援ボランティア活動を行うなど「災害」「防災」をテーマに展開している。和泉ボランティアセンターは、学生団体と障害者によるパン販売を行うなど「福祉」をテーマに展開している。生田ボランティアセンターは、里山ボランティアを中心に、川崎市多摩区との地域連携による行事を行うなど「里山」「環境」をテーマに展開している。 ・問題点 ① 人員、設備等の条件整備がまだ十分ではない。 ② 「現状」で述べた4つの業務のうち、「3 ボランティア活動に参加する学生の人材養成」「4 ボランティア活動に関する調査・研究」については、2008年度には実施に至っていない。	①に対しては、 ●2008年度は駿河台のみ専任担当者が退職のため不在の時期があったが、2009年度初頭からすべての地区のボランティアセンターが本格的に稼働できるよう、人員整備(駿河台ボランティアセンターの専任担当者の補充)を行う。 ●ボランティアセンターの運営に係る予算措置を行い、2009年度に設備等の条件整備を行う。 ②に対しては、 ●ボランティアセンター運営委員会で業務計画を検討し、2009年度より実施する。
(理念・目的等の検証) ・ センター等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況	・現状 センターの理念・目的等を検証する仕組みは、まだ導入していない。現状では、後述するボランティア運営委員会が業務の計画を立てる段階で、これまでの事業を当センターの目的との関係において検討し、それについて業務・計画を見直すことになっている。しかし、業務の稼働が始まったばかりであり、検証作業には手が付けられていない。	●まず、ボランティア運営委員会の課題として、1年ごとの業務の検証と、それを踏まえた計画策定を定着させる。 次に、ボランティアセンター運営委員会で、どのような検証の仕組み導入すべきかについて検討する。

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
	・長所 ・問題点 ボランティア運営委員会において、1年ごとの業務の検証と、それを踏まえた計画策定作業が行われていない。 センターの理念・目的等を検証する仕組みを導入する必要がある。	

1-2 理念・目的に基づいた特色ある取組み（略）

2 教育研究組織

点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
○ センターなどの組織構成と理念・目的等との関連	・現状 ・長所 ・問題点	
・ センター等の組織の妥当性を検証する仕組みの導入状況		

3 教育内容・方法等（略）

4 学生の受け入れ（略）

5 学生生活（略）

6 研究環境（略）

7 社会貢献（略）

8 教員組織（略）

9 事務組織

事務組織に関する目標		
学生のボランティア活動に関する情報収集、広報活動、相談、支援、調査、人材養成等の実務を通し、本センターの目的を達成する。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(事務組織の構成) ○ 事務組織の構成	・現状 センターに関する事務は、学生支援部学生支援	● 2009年度初頭から補充する。

と人員配置	事務室が行う。 センター担当（他業務と兼務）の学生支援事務室所属の専任職員3名（各校舎1名）と、専らセンター業務に従事する嘱託職員3名（各校舎1名）を置いている。しかし、駿河台ボランティアセンターにおいては、嘱託職員が2008年6月から11月まで在職していたものの退職し、以降、他業務と兼務の専任職員1名のみで業務を行っている。 ・長所 担当者間で業務遂行のための手法を随時検討しているとともに、各種情報等の共有に努めている。 ・問題点 駿河台ボランティアセンターのみ担当者が1名となっており、日常の業務にも支障をきたすことがある。人員の補充が必要となっている。	
（事務組織と教学組織との関係） ○ 事務組織と教学組織との間の連携協力関係の確立状況 ○ 大学運営における、事務組織と教学組織との有機的一体性を確保させる方途の適切性	・現状 ボランティアセンターは、もともと既存の学部等で行われているボランティア活動を前提として、これと抵触しない範囲における全学のボランティア活動を支援するという趣旨で設立された経緯がある。そのため、センターが立ち上がってまだ日の浅い現状では、教学組織との連携・協力関係については、センターの開催する行事の広報等への協力依頼等にとどまっている。 ・長所 ・問題点 学部等で行われているボランティア活動とは、「抵触しない」という暗黙の了解があるだけであり、活動それ自体において、どのように連携・協力ができるかが、まだ視野に入っていない。	●ボランティアセンターの活動が本格化する過程において、今後、学部等で行われているボランティア活動との連携・協力の課題は、遠からず表面化するものと思われる。そのため、教学組織とどのような連携・協力が可能であるかについて、センター事務担当者間で協議の上、ボランティアセンター運営委員会において検討の俎上に載せる。
（事務組織の役割） ○ 教学に関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性 ○ 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動の適切性 ○ 国際交流等の専門業務への事務組織の関与の状況 ○ 大学運営を経営面から支えうるような事務機能の確立状況	・現状 センターの業務において、ボランティア情報の収集、広報活動、相談業務等は、センター業務に携わる専任職員・嘱託職員が行っている。 ・長所 センターの業務において、事務組織は大きな役割を担っている。 ・問題点 企画立案から実施までが、ボランティアセンター運営委員会および担当の専任職員・嘱託職員に限られており、ボランティアセンターが中心となっていく活動の輪がなかなか広がらない。	

(スタッフ・ディベロップメント(SD)) ○ 事務職員の研修機会の確保の状況とその有効性 ・事務組織の専門性の向上と業務の効率化を図るための方途の適切性	・現状 学外で開催される研修会等に専任職員及び嘱託職員を派遣し、資質向上に努めている。 また、学内においても外部から講師を招き、業務に関する研修を行っている。2008年度は、ボランティアセンター職員としての基礎的な知識を得ることに重点を置き、生田校舎において3回行った。 <table border="1" data-bbox="411 394 1037 640"> <thead> <tr> <th>実施日</th><th>名称</th><th>講師</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月22日</td><td>勉強会①</td><td>東京ボランティア・市民活動センター職員</td></tr> <tr> <td>6月26日</td><td>勉強会②</td><td>横浜市市民活動センター職員</td></tr> <tr> <td>3月3日</td><td>初級ボランティア講座</td><td>横浜市市民活動センター職員</td></tr> </tbody> </table> ・長所 他大学のボランティアセンター担当者やボランティア関係団体の担当者と情報及び意見交換することにより、日常業務の方法・課題について改善を図ることができる。 ・問題点 専任職員及び嘱託職員ともに、ボランティアに関して専門的に学んだ職員がいないために、独自の企画立案や外部団体とのネットワークの形成に制約がある。	実施日	名称	講師	5月22日	勉強会①	東京ボランティア・市民活動センター職員	6月26日	勉強会②	横浜市市民活動センター職員	3月3日	初級ボランティア講座	横浜市市民活動センター職員	ボランティアに関して専門的に学んだ職員を特別嘱託職員として採用する方向で検討を進めている。
実施日	名称	講師												
5月22日	勉強会①	東京ボランティア・市民活動センター職員												
6月26日	勉強会②	横浜市市民活動センター職員												
3月3日	初級ボランティア講座	横浜市市民活動センター職員												

10 施設・設備等 (略)

11 図書および電子媒体等 (略)

12 管理運営 (略)

14 自己点検・評価

自己点検・評価に関する目標		
冒頭で述べた目的、目的遂行のための指導・助言や各種の企画、さらに遂行のための条件整備が適切に遂行されているか点検・評価することを目的としている。		
点検・評価項目	現状(評価)	問題点に対する改善方策
(自己点検・評価) ○ 自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性 ○ 自己点検・評価の結果を基礎に、将来の充実に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性	・現状 本センターの自己点検・評価は今年度が初めてである。 ・長所 ・問題点 ボランティア運営委員会において、1年ごとの業務の検証と、それを踏まえた計画策定作業が行われていない。 センターの理念・目的等を検証する仕組みを導入する必要がある。	●●まず、ボランティア運営委員会の課題として、1年ごとの業務の検証と、それを踏まえた計画策定を定着させる。 ボランティアセンター運営委員会に、自己点検・評価を担当するワーキンググループ等の設置を検討する。

（自己点検・評価に対する学外者による検証） ○ 自己点検・評価結果の客観性・妥当性を確保するための措置の適切性 ・ 外部評価を行う際の、外部評価者の選任手続の適切性 ・ 外部評価結果の活用状況	・ 現状 今のところ検証のシステムはない。 ・ 長所 ・ 問題点	● ボランティアセンター運営委員会で検討する。
（大学に対する社会的評価等） ・ センター等の社会的評価の活用状況 ・ 自大学の特色や「活力」の検証状況	・ 現状 今のところ検証し、活用するシステムはない。 ・ 長所 ・ 問題点	● ボランティアセンター運営委員会で検討する。
（大学に対する指摘事項および勧告などに対する対応） ○ 文部科学省からの指摘事項および大学基準協会からの勧告などに対する対応	・ 現状 本学に対する文部科学省からの指摘事項及び大学基準協会からの勧告等があった場合は、自己点検・評価全学委員会を対外的な窓口として、学部等自己点検・評価委員会で対応することになっている。 ・ 長所 ・ 問題点	

15 情報公開・説明責任

情報公開・説明責任に関する目標		
本センターは、本大学の学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的として設置された。この目的に基づいてセンターの事業が実施されているかを検証するため、自己点検・評価を実施している。		
点検・評価項目	現状（評価）	問題点に対する改善方策
（財政公開） ○ 財政公開の状況とその内容・方法の適切性	・ 現状 ・ 長所 ・ 問題点	
（情報公開請求への対応） ○ 情報公開請求への状況対応とその適切性	・ 現状 ・ 長所 ・ 問題点	

(点検・評価結果の発信) ○ 自己点検・評価結果の学内外への発信状況とその適切性 ○ 外部評価結果の学内外への発信状況とその適切性	・現状 本センターの自己点検・評価は今年度が初めてである。今後、大学ホームページ上に「大学評価」として評価結果を公開していく。 ・長所 センターの現状と改善点について明示し、センターの発展に期する。 ・問題点	
--	---	--